

昨年の馬インフルエンザ問題では、調教場利用者の方々には防疫面でご協力いただきありがとうございました。また、場内見学の自粛もあり、皆様方にはご迷惑をお掛けいたしました。しかし、施設の使用に当たっては、サマータイムの実施・ハロンシグナルや発馬機の設置・各所馬場の路盤改修等、利用環境の充実を図りました。今年もより良い環境のもとご利用いただけるよう努めてまいりますので、大勢の方々のご来場・ご利用をお待ちしております。

当センター研修生は今月から若馬での騎乗訓練を開始、研修の最終段階に入りました。4月の卒業に向け日々訓練に励んでおります。また、昨年の11月に次期研修生の選考を行いましたが、近年応募者が減少傾向にあり、優秀な人材を牧場へ供給することが危惧される今日この頃です。当センターとしても対策を尽くしておりますが、皆様方からも当研修事業のご紹介・ご案内等をご協力いただければ幸いです。(Y.H.)

「たづな」欄は、長年にわたりわが国の馬の感染症や病気を中心に研究をされてきたJRA競走馬総合研究所の和田隆一所長に、「競馬の歴史と伝統に挑むスポーツ科学」というタイトルで執筆していただきました。わが国唯一の馬の研究機関としての役割を果たしているJRA総研の使命と研究活動がよくお分かりいただけると思います。研究成果の普及がさらに強い馬づくりに役立つことを期待しています。

「サイエンティストからの提言」欄は、今年から馬関係の科学的知識や情報が詰まっている「科学の箱馬車」に名称が変わりました。今回は2編掲載し、昨年8月に久しぶりに流行した馬インフルエンザについて長年研究をされているJRA総研栃木支所の今川浩氏に、また、馬の子宮内での胎子成長の重要性について東京農工大学大学院の田谷一善教授に分かりやすく解説していただきましたので、参考にいただければ幸いです。

「調査研究」欄は、馬場施設関係の応用研究を担当しているJRA日高育成牧場の二村啓介専門役に、ダートコースに有効な砕砂路盤馬場に関する研究内容を分かりやすく解説していただきました。厳寒期の日高の気候に適したダートコースの馬場についてであり、日高では大変参考になると思います。(T.Y.)